

# 普及だより

第140号 令和3年12月  
茨城県 鹿行農林事務所  
行方地域農業改良普及センター  
行方地域農業改良推進協議会  
電話 0299 (72) 0256  
FAX 0299 (72) 1690

## サツマイモ基腐病の防除対策 ～次作に向けて～

サツマイモ基腐病は本年6月に本県でも発生が確認され、全国的に発生が拡大しています。発生地の中には、感染拡大が治まらず、危機的な状況になっているところもあります。県内では幸いに、6月以来まだ発生は確認されておりませんが、今のうちに基腐病に関する理解を深め、対策を徹底することが、非常に重要です。

### 侵入防止と 早期発見の徹底を！

当産地におけるサツマイモ基腐病の対策として、最も重要なのが、病気を侵入させないことです。そして、次に重要なのが、万が一発生した場合、早期発見し、病気が拡大する前に封じ込めることです。そのためのポイントをご説明いたします。

#### ① 侵入防止のポイント

種芋や種芋由来の切り

苗は、他地域から持ち込まない

感染源として、最もリスクが大きいのは感染している種芋や切り苗が産地に持ち込まれることです。他地域から持ち込んだ種苗が100%安全とは言いがちなため、地域をまたぐ移動をさせないことが重要です。

② 苗増殖はできるだけウイルスフリー苗で

種芋由来の苗に比べれば、感染するリスクは少ないと言えます。やむを得ず種芋で増殖する場合は、病害等の発生していない圃場から収穫した芋のみを使用してください。また、種芋は、どこの圃場から収穫したかが分かるようにし、栽培履歴は必ず記録に残してください。

#### ① 早期発見のポイント

① まずは、苗床をよく観察する

万が一、病原菌が産地に侵入してしまった場合、最

も封じ込めやすいのが苗床です。ここで発病株を見逃すと、感染苗が複数圃場に広まり、対策の難易度が一気に高まります。そのため、苗管理の一環で、苗床をよく観察することが非常に重要です。

② 挿苗後は6月～7月の観察が大事

万が一、感染苗を挿苗した場合（土壌伝染ではなく、あくまで苗感染）、症状が現れるのは比較的早い時期で、6月～7月です。この時期に圃場をよく見回りし、疑わしい株がないかよく観察することが重要です。ここで、感染株を見逃すと、その後の台風等で一気に圃場内に感染が拡大する恐れがあります。除草剤散布する際に、生育状況をよく観察してください。

#### 今からまず取り組むこと

当産地では、基腐病の発生は確認されておりませんが、今のうちから習

慣付けていただきたいのが、掘り取り後の速やかな耕耘です。地温が高いほど、病原菌に感染している残渣（芋や葉、茎の残骸）が分解されやすくなります。

いずれの時期でも、疑わしい株を見つけた場合は、ご自身の判断で抜き取り等を行わず、普及センターにご連絡ください。



写真  
地際の黒変（右）  
葉の黄変・生育不良（左）

写真出典 生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）  
令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」  
[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html)

～農作物や農業機械の盗難に注意しましょう～

# 普及だより

## 令和3年度認定

### 農業経営士のご紹介



若泉 秀治さん  
(行方市芹沢)

若泉さんは、行方市玉造地区において、養豚経営に取り組んでいます。

高品質生産に向け、SPF母豚導入による一貫経営に取り組みとともに、茨城県養豚協会及び茨城県県南地区養豚協会青年部に所属し、組織活動を通じて地域の養豚経営の発展に貢献してきました。

行方地域の養豚経営の担い手として活躍が期待されます。

## 令和3年度認定

### 女性農業士のご紹介



原目 治美さん  
(行方市山田)

行方市北浦地区において、レンコン・葉ショウブの複合経営を行っています。

地域における女性農業者の活動にも関心が高く、特に食農教育分野では、野菜ソムリエの資格を取得するなど、自らの資質向上にも意欲的です。

SNSを活用したレンコンや葉ショウブ等の地域特産物の情報発信など、幅広い分野での活躍が期待されます。

## 令和3年度認定

### 青年農業士のご紹介



中居 和志さん  
(行方市天掛)

行方市麻生地区において、レンコン栽培に取り組んでいます。幼少期から祖父父母のレンコンづくりを身近に感じ、平成31年にレンコン経営を継承しました。

令和2年度に、レンコンの経営改善に意欲的な後継者で組織された「なめがたLR育成会」を設立し会長を務めています。

レンコン経営の若手農業者のリーダーとして活動が期待されます。

## 農業三士 退任者のご紹介

### 農業経営士

須貝 稔さん(平成13年度認定)  
高橋慶治さん(平成22年度認定)  
青年農業士

谷田哲也さん(平成21年度認定)  
内山研一さん(平成28年度認定)  
長い間、お疲れさまでした。

## ナガエツルノゲイトウの 拡散に注意

今年度、霞ヶ浦・北浦湖岸や管内の水田・レンコン田の畦畔・用水路で難防除雑草「ナガエツルノゲイトウ」の発生が確認されました。

再生力が高く、2cm程度の茎の断片からでも発根します。また、地上部を除去しても根が残っていると再生します。ちぎれやすいため、刈払機での除草や、増水や水流によって水利ネットワークに侵入し広範囲に拡散する可能性があります。

早期発見に努め、植物断片の田への侵入を阻止することが重要です。

「ナガエツルノゲイトウ」は、「特定外来生物」であるため、生きた個体の運搬は法律で禁止されているなど、法に則った防除等が必要です。判断に迷った場合は、普及センターに連絡して下さい。



ナガエツルノゲイトウ  
(11月撮影)

## 農業学園の紹介

普及センターでは、就農間もない農業者を対象に、経営改善を行うための知識の習得や、学園生間の仲間づくりを目指して農業学園を開催しています。

令和3年度は、7月26日(火曜日)に開講式および第一回講座を開催し、6名の学園生が出席しました。開講式では、センター長から学園生に対して、期待を寄せるメッセージが送られました。

続く第一回講座は、前県女性農業士会長として活躍された金田弥生氏から、自身の経営や栽培の特徴、農業を始めた経緯などについてお話をいただき、農福連携やサツマイモの加工について議論が交わされました。

また、10月19日(火)には、県南農林事務所経営・普及部門主催のレンコン講座がリモートで開催され、栽培法や施肥、病害虫防除について講義があり、行方からは学園生2名が受講しました。

新型コロナウイルスの影響で一部講座を延期にしましたが、今は状況を考慮し、感染対策を行った上で開催していく予定です。是非お気軽にご参加ください。

～風雪害防止のため農業用ハウスの強靱化を行いましょう～